

第 **53** 期

中間事業報告書

平成15年4月1日→平成15年9月30日

 **高千穂交易株式会社**
TAKACHIHO KOHEKI CO.,LTD.

証券コード：2676



ごあいさつ

株主の皆様には、ますます
ご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り、
厚くお礼申し上げます。
当社第53期中間事業活動
(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)
の概況をご報告申し上げます。

平成15年12月

代表取締役社長 **山村 秀彦**

2003年度事業進捗について



**2003年度の上期が経過して、
今期の事業進捗について教えてください。**

2003年度は、新商品や新サービスを積極的に市場投入して、セキュリティ事業を中心としたシステム機器事業を伸ばすとともに、デバイス事業ではひとつの製品に複数デバイスを採用していただくパッケージ販売を強化するなど、収益性の向上と増収に向けた諸施策を推進しています。残念ながら、上期は当初業績予想比で増益でしたが、売上は11%強の減収となりました。

この上期は、営業の概況で説明いたします通り、セキュリティ事業では計画していた顧客開拓が進んだほか、ミニタグなどの新商品の投入もでき、営業活動体制を強化しました。メーリング事業は新商品投入と顧客開拓効果で業績が回復してきました。しかし、情報ネットワーク事業は、今後重点展開を目指すネットワークセキュリティ分野で新商品を市場投入し商品ラインナップができたものの、結果は下期へ繰り越すことになりました。

一方で、デバイス事業ですが、半導体事業では、昨年からの投入している光通信や無線通信用半導体及びモジュール商品やシリコンマイクなどの新規商品やパッケージ販売による需要開拓施策を進めていますが効果はまだ薄く、好調であった前年同期と比較して大きく減収になりました。しかし、下期以降に向けたシリコンマイクなどの新規商品投入がデジタル・スチルカメラへの採用に向けて活動中で、今後の展開が楽しみです。そして、機構部品事業は、来年7月に発行される「新札」対応のATM（現金自動預け払い機）増産特需で受注納入が計画以上で推移し、下期もしっかり取り組みます。

事業ポートフォリオの改善は 進みましたか？

当社の事業では、当社が今期の目標とするシステム機器事業の売上高比率は34.4%ですが、2003年9月中間期は33.3%になりました。中期経営計画目標では35%ですから、進捗していると思います。

しかし、業績が計画通りに進捗しているかを問いますと、収益バランスは良いのですが、デバイス事業の減収によってもたらされた結果ですから、成長面では評価できません。今後とも各事業での施策を確実に実行し、業績で成果を出す工夫と努力を続けたいと考えています。

アジア地域の施策は、 進展しましたか？

今年中に中国の上海地域に拠点を設置します。SARS（重症急性呼吸器症候群）の影響で若干の遅れは出ましたが、いよいよ稼働させます。中国で生産する日系メーカーへのデバイス販売を強化し、商材開拓もスタートさせます。また、アジア地域からの商材調達ですが、台湾メーカーのCMOS（受光素子）イメージセンサーや半導体モジュール製品は、機会があればご紹介したいと思います。それぞれ、ユニークな製品に採用されました。この商材分野は、デバイス事業の成長の鍵を担うと考えています。

配当について

第53期も増配予想を 発表していますね。

はい。平成15年3月期（第52期）は年間20円配当と増配を行いました。この平成16年3月期（第53期）も年間25円配当の増配予想を発表しています。配当については、安定配当に配慮しつつ、株主重視の方針でまいるつもりです。

最後に、この中間期末に当社の株主数は1,354名となりました。多くの株主様からご期待とご支援を賜り感謝いたします。今後とも、業績向上に努めてまいりますので、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



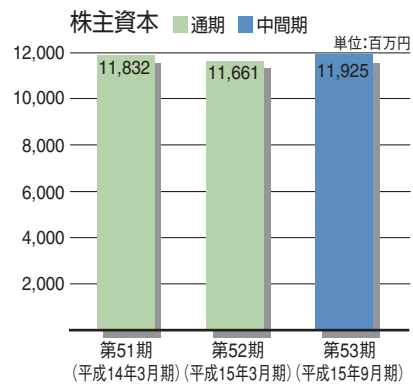
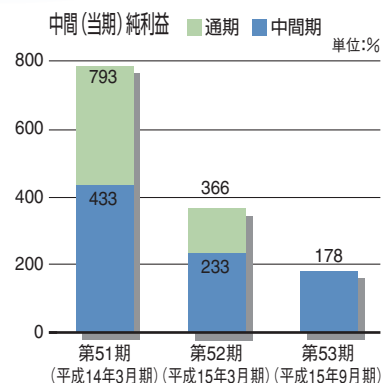
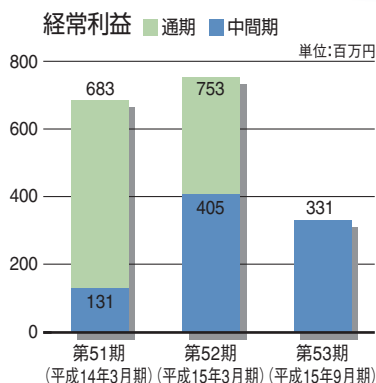
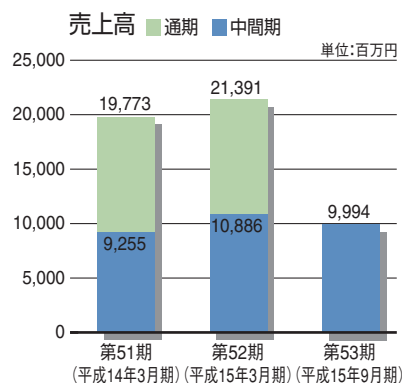
連結財務ハイライト

Financial Highlights

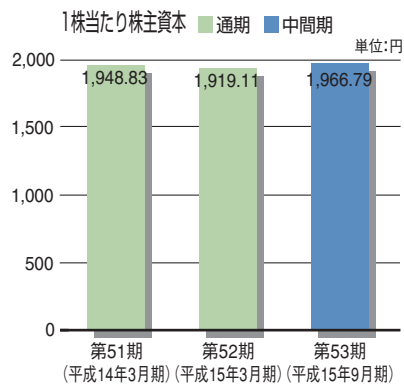
売上高 **9,994** 百万円 (前年同期比 8.2%減)

経常利益 **331** 百万円 (前年同期比18.2%減)

中間純利益 **178** 百万円 (前年同期比23.5%減)

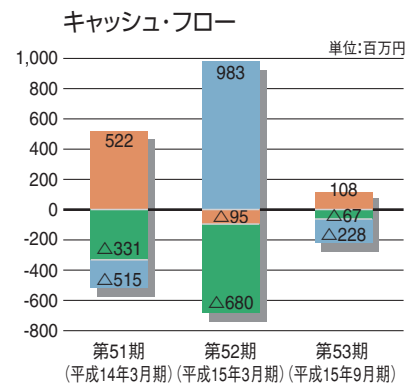


(注) 平成13年5月18日に1株を1.2株に分割。



(注) 期中平均発行済株式数で算出。

平成13年5月18日に1株を1.2株に分割。



営業活動 投資活動 財務活動

連結営業の概況

Review of Operations

経営成績

当中間連結会計期間の概要

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、民間設備投資が増勢で推移し、雇用・所得環境に改善傾向が現れ、株高と相まって消費へ弱含みながらプラス影響が期待でき、景気に底堅い展開が見られる中、冷夏及び急速な円高が入り交じり、経済の先行き不透明感が払拭できない状況であります。

当社グループの事業分野では、市場環境は厳しいものの、セキュリティ・通信・デジタル商品などの有力分野を現有事業領域に抱え、付加価値の高い提案や商品・サービス供給が事業成長を左右する状況であります。

■ 市場開拓

市場開拓では、セキュリティ事業において、ドラッグストア、大手GMS（総合スーパーマーケット）業界を始めとした重点開拓市場に対して、積極的な販売促進を進めてまいりました結果、大手GMSへの横展開が実現しました。

■ 新規商権と新規商品開拓

新規商権と新規商品開拓では、セキュリティ事業において、自社グループ企業が開発した国内最小クラスの自鳴式タグを発売したほか、情報ネットワ

ーク事業において、ネットワークセキュリティ関連商品の強化を図りました。

また、半導体事業では、世界初の小型シリコンマイクの販売権を取得し、携帯電話やデジタルカメラ向けなどに販売を開始いたしました。

そして、カスタム・サービス事業においては、当社本社内にTK-SOC（高千穂交易—セキュリティ・オペレーション・センター）を開設し、5月からネットワーク不正侵入予知サービスを開始いたしました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、セキュリティシステム及びメーリングシステム販売が大きく伸びたほか、産機商品類が堅調に推移したものの、電子商品類が振るわなかったことから、99億94百万円となり、前年同期比8億91百万円（△8.2%）の減収となりました。

損益につきましては、利益率が低い電子商品類の売上構成比率が9.3ポイント低下したことから粗利益率が前期同期比で2.9ポイント上昇し、販売費及び一般管理費の節減に努めました結果、当中間経常利益は3億31百万円となり、前年同期比73百万円（△18.2%）の減益となりました。

そして、当中間純利益は1億78百万円となり、54百万円（△23.5%）の減益となりました。

連結営業の概況

Review of Operations

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

■ システム機器事業

●セキュリティ商品類は、リテール向け商品監視システムが引き続きドラッグストア市場などで好調な中で、オフィスセキュリティシステムが大型システムの納入設置に長期間要し、新規顧客開拓が遅れて落込みましたが、前年同期比29.1%大幅増の26億11百万円となりました。

●情報ネットワーク商品類は、ネットワークセキュリティ商品の新規商品を投入し、ラインナップを強化しましたが、顧客開拓遅れから前年同期比35.8%大幅減の2億79百万円となりました。

●メーリング商品類は、新商品投入効果と新規顧客開拓により主力のメール・インサーターシステムが伸び、前年同期比17.5%増の2億57百万円となりました。

結果、システム機器事業は、売上高は前年同期比15.7%増の33億27百万円、営業利益は前年同期比17.1%増の2億27百万円となりました。

■ デバイス事業

●電子商品類は、携帯電話・DVDナビゲーション向け半導体は好調に推移しましたものの、パソコン向け半導体の納入先が予定より早期に生産拠点を海外移転したことやノートパソコン向けタッチパッドが新機種への採用が見送られた影響から、前年同期比24.8%減の41億94百万円となりました。

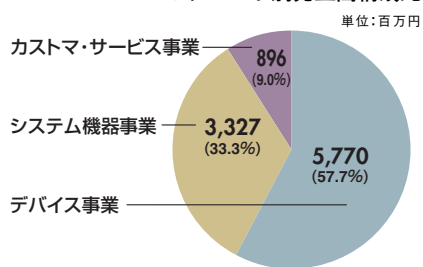
●産機商品類は、ATM(現金自動預け払い機)用機構部品が「新札」特需により当初計画を上回って好調に推移し、前年同期比3.7%増の15億76百万円となりました。

結果、デバイス事業は、売上高は前年同期比18.7%減の57億70百万円、営業利益は前年同期比31.6%大幅減の2億85百万円となりました。

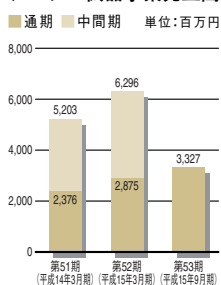
■ カスタム・サービス事業

●システム機器事業の増収による機器設置収入等の増収効果は、旧システムの保守契約の終了と相殺され、売上高は前年同期比1.6%減の8億96百万円、営業利益は前年同期比32.0%大幅減の78百万円となりました。

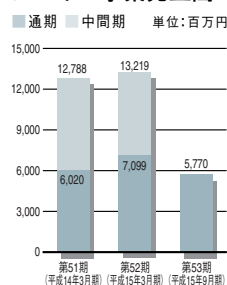
セグメント別売上高構成比



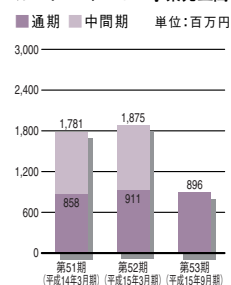
システム機器事業売上高



デバイス事業売上高



カスタム・サービス事業売上高



通期の見通し

通期の見通しにつきましては、わが国経済は、景気に底堅い展開が見られるものの、急速な円高により、先行き不透明感が払拭できない状況であります。

このような状況にあつて、システム機器事業ではリテール・セキュリティに対する高い需要とネットワーク・セキュリティに対する強い関心を捉え、引き続き市場開拓を推進するとともに、デバイス事業では、「新札」特需への対応とデジタル機器等への商品提案を強化し、新商品への採用を目指して収益性向上に努めてまいります。

以上のような見通しにより、通期業績は、売上高232億21百万円、経常利益10億41百万円、当期純利益5億87百万円を見込んでおります。

財政状態

当中間連結会計期間の概要

■ キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、税金等調整前中間純利益が3億27百万円ありましたが、運転資金の増加などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは2億28百万円の支出となりました。

一方で、投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還などにより1億8百万円の収入となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、67百万円の支出となりました。その結果、当中間連結会計期間の現金及び現金同等物は、

期首比1億88百万円減少し、現金及び現金同等物の期末残高は41億17百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益が3億27百万円でしたが、運転資金の増加4億37百万円や法人税の支払1億61百万円などにより、2億28百万円の支出（前年同期比3億37百万円増）となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、保有国債の満期による有価証券の償還3億20百万円や新たな国債等購入2億18百万円などがあり、1億8百万円の収入（前年同期比1億12百万円増）となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより、67百万円の支出（前年同期比1億円増）となりました。

通期の見通し

通期の見通しにつきましては、「経営成績」で記載いたしました経済状況と事業見通しにあつて、引き続き資産効率の向上と経営資源の重点活用を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

New

新商品のご紹介

Products

高千穂交易は世界の先端商品・技術を、
逸早く日本の市場に供給し、社会と産業に
新しい価値を提供しています。

今年も新しい価値を追求して、
新技術・商品を市場投入しましたので、
その一部をご紹介します。

これらの商品の詳しい情報は
当社ホームページでご覧いただけます。
[http://www.takachiho-kk.co.jp/
what/what.html](http://www.takachiho-kk.co.jp/what/what.html)

世界初の小型シリコン・マイク

SiSonic

携帯電話のマイクと言えば、小型であるのが当然です。このマイク、「エレクトレット・コンデンサー・マイク」*と言って、意外とデリケートで、そのため機械による自動取り付けが難しく、1台ずつ手で半田付けされています。

今年7月に、当社は、世界初の「シリコン・マイク」を開発した米国ノウルズ・エレクトロニクス社から販売権を取得し、販売を開始しました。この「シリコン・マイク」は、性能は従来のもので変わらず、非常に小型（写真）で、自動半田付けによる取り付けを実現しました。自動化の実現は、メーカーの生産性向上に大いに貢献いたします。そして、「シリコン・マイク」の用途は広く、デジタルカメラや携帯電話など成長市場であるデジタル民生機器に使用されます。

*エレクトレット・コンデンサー・マイク：現在普及しているマイクで、音響収集部分が振動板と対抗する背極板により一種のコンデンサーを形成する構造。



ドアに内蔵できる新商品監視システム

デジタルループシステム

10月には、新タイプの商品監視システム*を発売し、商品ラインナップを強化しました。商品監視システムは、設置場所やスペースのほか、システムの威圧感の有無など、性能やデザイン・形態についてさまざまな要望があります。

「デジタルループシステム」（設置例写真）は、業界で初めてドア埋め込みタイプで、さらに小型化したものです。ドア埋め込みタイプですから、来店のお客様に商品監視システムによる監視イメージをもたらすことはありませんし、明るい店舗イメージが演出できます。万引き犯罪が増加している社会で、利益を守る小売業の要請にお応えできる商品です。用途は、高級ブランドショップ、ファッションショップのほか、企業の重要資産の不正持ち出し防止にと、期待しています。

*商品監視システム：商品に貼付するセキュリティタグと不正持ち出し商品のタグを感知し、アラーム音を発する店舗などの出入り口に設置するセンサーゲートから構成する。



国内最小の自鳴式商品監視システム用小型タグ

ミニタグ

当社子会社株式会社エスキューブは、日本で初めて自鳴式タグ*を開発しましたが、この6月には、国内最小の「ミニタグ」（写真）を開発・発売いたしました。

「ミニタグ」は、エスキューブ従来品より容積で約半分、重量で60%を実現したもので、それ以外にも、従来のワイヤー吊り下げタイプに加えて貼付タイプも追加、タグが光る（LED搭載）などの新しい機能も加わりました。販売先は、同社が強みとするパソコンショップ、家電量販店、ホームセンターのほか、小型軽量化により、高級ブランドショップ、メガネストア、百貨店など拡大を期待しています。また、「ミニタグ」は国際的にも商品競争力があるため、来年度以降は、商品監視システムが普及している海外地域（ヨーロッパ、アジアなど）への展開も考えています。

*自鳴式タグ：ゲート以外にセキュリティタグそのものが警報音を発するため、商品の不正持ち出し者や鳴っている場所が特定できることから、セキュリティ性が一層高まる。



連結財務諸表

Financial Statements

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年9月30日現在	平成14年9月30日現在	平成15年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	13,074	13,617	13,503
現金及び預金	4,117	3,360	4,305
受取手形及び売掛金	5,739	6,200	5,455
有価証券	2	321	320
たな卸資産	2,786	3,132	2,876
繰延税金資産	180	159	147
その他	272	470	420
貸倒引当金	△23	△27	△23
固定資産	4,035	3,481	3,742
有形固定資産	1,047	1,033	1,039
建物及び構築物	92	96	91
土地	759	759	759
その他	195	177	188
無形固定資産	447	249	508
連結調整勘定	240	—	270
その他	207	249	238
投資その他の資産	2,540	2,198	2,194
投資有価証券	1,801	1,212	1,277
繰延税金資産	61	222	174
再評価に係る繰延税金資産	209	220	209
その他	522	595	577
貸倒引当金	△55	△52	△44
資産合計	17,109	17,098	17,246

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年9月30日現在	平成14年9月30日現在	平成15年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	4,365	4,852	4,773
支払手形及び買掛金	2,212	2,407	2,444
短期借入金	1,114	1,218	1,106
未払法人税等	199	203	168
賞与引当金	339	291	301
その他	499	731	752
固定負債	803	743	797
退職給付引当金	465	437	452
役員退職慰労引当金	250	219	240
その他	87	86	105
負債合計	5,169	5,596	5,571
(少数株主持分)			
少数株主持分	14	14	14
(資本の部)			
資本金	795	795	795
資本剰余金	758	758	758
利益剰余金	10,124	9,958	10,046
土地再評価差額金	△314	△304	△314
その他有価証券評価差額金	577	294	391
為替換算調整勘定	△0	△0	△0
自己株式	△14	△14	△14
資本合計	11,925	11,487	11,661
負債、少数株主持分及び資本合計	17,109	17,098	17,246

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	9,994	10,886	21,391
売上原価	7,374	8,352	16,178
売上総利益	2,620	2,534	5,212
販売費及び一般管理費	2,309	2,076	4,380
営業利益	310	458	831
営業外収益	37	12	18
受取利息	2	2	4
受取配当金	1	3	3
為替差益	24	—	—
その他営業外収益	8	7	10
営業外費用	16	65	96
支払利息	9	13	25
為替差損	—	31	13
商品廃棄損	4	8	38
その他営業外費用	2	12	19
経常利益	331	405	753
特別利益	—	8	33
貸倒引当金戻入益	—	1	8
投資有価証券売却益	—	7	25
特別損失	3	—	76
投資有価証券評価損	—	—	68
ゴルフ会員権評価損	3	—	8
税金等調整前中間(当期)純利益	327	413	710
法人税、住民税及び事業税	191	175	327
法人税等調整額	△43	3	15
少数株主利益	0	0	1
中間(当期)純利益	178	233	366

■ 中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	758	758	758
資本剰余金増加高	—	—	—
資本剰余金減少高	—	—	—
資本剰余金中間期末(期末)残高	758	758	758
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	10,046	9,809	9,809
利益剰余金増加高	178	233	366
中間(当期)純利益	178	233	366
利益剰余金減少高	100	84	129
配当金	75	60	106
役員賞与	24	23	23
利益剰余金中間期末(期末)残高	10,124	9,958	10,046

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△228	△565	983
投資活動によるキャッシュ・フロー	108	△3	△95
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67	△167	△680
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△2	△2
現金及び現金同等物の増減額	△188	△740	205
現金及び現金同等物の期首残高	4,305	4,100	4,100
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,117	3,360	4,305

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単体財務諸表

Financial Statements

■ 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年9月30日現在	平成14年9月30日現在	平成15年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	11,832	13,178	12,293
現金及び預金	3,656	3,127	3,816
受取手形	1,148	1,292	1,299
売掛金	4,160	4,808	3,919
有価証券	2	321	320
たな卸資産	2,440	3,064	2,410
通貨スワップ	143	344	275
繰延税金資産	172	151	140
その他	132	94	134
貸倒引当金	△24	△26	△22
固定資産	4,541	3,511	4,278
有形固定資産	1,034	1,028	1,027
建物及び構築物	92	96	90
工具器具備品	180	169	173
土地	759	759	759
その他	2	3	2
無形固定資産	193	240	221
投資その他の資産	3,314	2,242	3,028
投資有価証券	1,799	1,210	1,275
関係会社株式	543	63	543
繰延税金資産	58	221	172
再評価に係る繰延税金資産	209	220	209
その他	753	596	868
貸倒引当金	△51	△69	△40
資産合計	16,374	16,689	16,571

科 目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年9月30日現在	平成14年9月30日現在	平成15年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	3,865	4,670	4,325
支払手形	438	337	459
買掛金	1,425	1,974	1,677
短期借入金	1,104	1,202	1,094
未払法人税等	185	190	155
繰延ヘッジ利益	143	344	275
賞与引当金	290	279	263
その他	277	342	399
固定負債	738	740	734
退職給付引当金	447	437	437
役員退職慰労引当金	238	215	227
その他	52	86	69
負債合計	4,603	5,411	5,059
(資本の部)			
資本金	795	795	795
資本剰余金	758	758	758
利益剰余金	9,969	9,748	9,896
利益準備金	198	198	198
任意積立金	9,395	9,155	9,155
中間(当期)未処分利益	375	394	542
土地再評価差額金	△314	△304	△314
その他有価証券評価差額金	576	294	390
自己株式	△14	△14	△14
資本合計	11,770	11,277	11,512
負債・資本合計	16,374	16,689	16,571

高千穂交易は、環境経営を推進しております。

環境方針

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	8,928	10,553	19,945
売上原価	6,768	8,167	15,255
売上総利益	2,159	2,386	4,690
販売費及び一般管理費	1,877	1,959	3,846
営業利益	282	426	844
営業外収益	41	17	24
受取利息	4	2	5
受取配当金	6	7	8
為替差益	22	—	—
その他営業外収益	7	7	9
営業外費用	11	66	87
支払利息	9	13	23
為替差損	—	32	14
商品廃棄損	—	8	32
その他営業外費用	2	11	17
経常利益	312	377	781
特別利益	—	8	34
貸倒引当金戻入益	—	1	8
投資有価証券売却益	—	7	25
特別損失	3	—	76
投資有価証券評価損	—	—	68
ゴルフ会員権評価損	3	—	8
税引前中間(当期)純利益	308	386	738
法人税、住民税及び事業税	179	161	307
法人税等調整額	△42	7	20
中間(当期)純利益	170	216	410
前期繰越利益	204	177	177
中間配当額	—	—	45
中間(当期)未処分利益	375	394	542

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

基本理念

高千穂交易は、グローバルな視点で企業活動を行う技術商社として、地球環境の保全と持続可能な発展を重要な経営課題のひとつとして認識し、かけがえのない地球の環境に最大限配慮した事業を推進してまいります。

基本方針

1. 環境パフォーマンスの評価・改善

環境保全と汚染の予防を推進するために、環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・目標を定め、環境パフォーマンスを定期的に評価し、見直しするとともに継続的に改善します。

2. 環境関連法規の遵守

事業活動を推進するにあたっては、環境保全に関連する法規、並びに当社が同意するその他の協定等を遵守します。

3. 重点取り組み項目

- 1) 環境への負荷を低減し安全に配慮した商品・サービスの提供
- 2) 環境保全を共有したビジネスパートナーとの協働
- 3) 廃棄物の発生抑制、資源の再利用とリサイクル活動の推進
- 4) 省エネ・省資源の推進

4. 環境方針の周知と公開

この環境方針は、全社員に周知徹底し全員が理解し行動できるよう教育・普及活動を実施するとともに一般にも公開します。

会社の概要

(平成15年9月30日現在)

Corporate Data

概要

設立	昭和27年3月
資本金	7億9,550万円
決算期	3月
社員数	293名
取引金融機関	みずほコーポレート銀行(大手町営業部) 東京三菱銀行(四谷支店) UFJ銀行(赤坂支店) 三井住友銀行(麹町支店) りそな銀行(大手町営業部) 三菱信託銀行(本店)
主要業務	情報ネットワークシステム、セキュリティシステム、半導体及び機構部品等の輸出入及び販売・据付・保守サービス並びにシステム設計・システム運用受託等サービス



本社

役員

代表取締役社長	山村 秀彦
常務取締役	篠藤 恵登
常務取締役	戸田 秀雄
取締役	赤堀 寛人
取締役	広木 邦昭
取締役	武智 良泰
取締役	山本 茂
取締役	今福 邦彦
取締役	佐藤 昭
常勤監査役	宮 俊
常勤監査役	柳沢 徹夫
監査役	竹田 章治

事業所

本社	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号 Tel.03-3355-1111(代)
本社第二ビル	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目1番地 Tel.03-3355-1111(代)
大阪支店	〒530-0018 大阪市北区小松原町2番4号 (大阪富国生命ビル) Tel.06-6313-0671(代)
名古屋支店	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1丁目24番21号 (名古屋三井ビル別館) Tel.052-582-2915(代)
札幌営業所	〒060-0031 札幌市中央区北一条東1丁目4番地1号 (サン経成ビル) Tel.011-223-3552(代)
東北営業所	〒981-3133 仙台市泉区泉中央3丁目18番4号 (オフィス21泉) Tel.022-771-2540(代)
北関東営業所	〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波2丁目48番地1 (大栄日生熊谷ビル) Tel.0485-25-7021(代)
松本営業所	〒390-0811 長野県松本市中央2丁目1番27号 (松本本町第一生命ビル) Tel.0263-39-6970(代)
九州営業所	〒812-0025 福岡市博多区店屋町8番24号 (九勸呉服町ビル) Tel.092-271-6759(代)
サービス網 米国駐在員事務所	全国300ヵ所 1400 Fashion Island Blvd. Suite 304, San Mateo, CA, 94404 U.S.A Tel.650-574-3224

株式の状況 (平成15年9月30日現在)

■ 子会社及び関連会社

(平成15年9月30日現在)

ジェイエムイー株式会社

〒102-0074

東京都千代田区九段南4-8-30

(アルス市ヶ谷)

Tel.03-3262-1701 (代)

●事業内容／各種電子部品の輸出入及び販売

高千穂ユースウェア株式会社

〒162-0824

東京都新宿区揚場町1-1

(揚場ビル)

Tel.03-3266-9381 (代)

●事業内容／情報機器の販売及び保守、ソフトウェアの開発、コンサルタント業務

高千穂コムテック株式会社

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-1

Tel.03-3355-1106 (代)

●事業内容／メーリング・システムの輸出入及び販売並びに開発・サポート・サービス

株式会社エスキューブ

〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-10-5

(TMMビル)

Tel.03-5820-3151 (代)

●事業内容／電子機器による盗難防止及び防犯管理システムの開発及び製造並びに販売

TAKACHIHO KOHEKI (H.K.) LTD.

Suite 612A,6/F., Ocean Centre,

Harbour City, 5 Canton Rd,

Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong

Tel.2730-3334

●事業内容／各種電子部品及び機構部品の輸出入及び販売

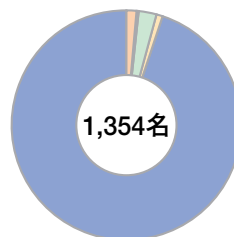
Stock Information

会社が発行する株式の総数	18,000,000株
発行済株式の総数	6,079,200株
株主数	1,354名
大株主	

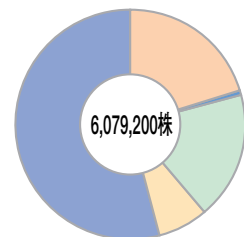
株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
栃本京子	534,000	8.83
株式会社日立ユニシアオートモティブ	360,000	5.95
佐々木豊実	270,000	4.46
みずほキャピタル株式会社	249,648	4.12
安田生命保険相互会社	204,000	3.37
株式会社みずほコーポレート銀行	200,400	3.31
山村秀彦	172,800	2.85
篠藤恵登	172,800	2.85
今福邦彦	172,800	2.85
高千穂交易従業員持株会	146,060	2.41

■ 株式分布状況

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	3月31日
	その他必要があるときは、あらかじめ 公告いたします。
利益配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日(中間配当を実施する場合)
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 電話照会先)	電話 0120-707-696(フリーダイヤル) 自動音声応答サービス 0120-86-4490
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、商法特例法第16条第3項に定 める貸借対照表および損益計算書に係 る情報は、当社ホームページ(URL http://www.takachiho-kk.co.jp/) におい て提供しております。
1単元の株式数	100株



ISO14001

本社・大阪支店・名古屋支店



〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号
TEL03-3355-1111(代)
URL <http://www.takachiho-kk.co.jp/>

